

# 唐丹の歴史いろいろ(七)

大船渡市吉浜

木村正継



最高指導者を総頭人とも言い、一八四七年(弘化四年)の三閉伊一揆の総頭人は、切牛の弥五兵衛で別名万六です。六年後(一八五三年)の

士・田野畑村畠山治右衛門岩手県下に滞在中病死行年五十八歳」と書かれているそうです。

もう一つが多助が定宿に

していたと考えられている盛岡の牛方宿だった「河権」の子孫の墓地に懇ろに葬られ現在も当時のご主人の遺言どおりに供養され、守り続けられております。

個人会員八三人団体会員十八と多数の参加者で勉強会やツアーを実施し、昨年一年間で四回の学習講演会を開催するなど活発に活動しています。

その活動の結果、三浦命助が釜石で捕まったときの様子が、今まで正確に伝わっていなかったのではないかとということも出てきました。

たことが平田に住んでいる市右衛門の子孫の方からの情報で判明するなど成果が出ています。

市右衛門は、三浦命助と接し、その人となりに感銘を受け子孫に代々三浦命助を忘れないで語り継ぐようにと言いい残したとのことです。

## 三閉伊大一揆 唐丹に越訴(三)

その気持ちが代々伝えられて市右衛門の子孫によって昭和七年平田(平田団地)から下りて来て国道四五号線に出る直前・地藏様の脇に三浦命助の碑が建立されています。

嘉永六年の一揆の総頭人は畠山多助です。

畠山多助を顕彰する「多助顕彰会(平成十八年五月現在、会員三一人)」という

た。

### 肝入市右衛門と盟助の碑

多くの人々の命を救うため自分の命を投げ出して戦った人々の代表である多助の顕彰碑も三浦命助の碑も語り伝えたいものだと思います。

の二十年後の(一八七三年)明治六年に一揆の疑いで捕えられ拷問を加えた厳しい取調べを受け自殺したと言

い伝えられています。多助のお墓は、二つあり一つは、小本の宗得寺にあり過去帳には「正岳法隣居士」

平田村の肝入を代々勤めた屋号(大屋)の猪又市右衛門という人と嘉永六年の一揆の時肝入を勤めその立場から藩の側に立ち、一揆勢を欺いて恨みを持った猪又市兵衛とが混同されてい

三浦命助の碑はこの他に栗林にあり、元釜石市長の鈴木東民さんの揮毫で建立されている。

今回は、「南部三閉伊一揆を語る会」事務局長牛山靖夫さん編集・発刊の「三閉伊一揆手引草」と「岩手民衆史研究会主宰・武田功先生」が長年研究してきた成果を凝縮した今年五月の講演会の資料「三閉伊一揆頭取畠山多助の生涯」を基に「語る会」の活動内容も含めて紹介したいと思いません。

一揆の指導者を頭人(とうにん)と言います。

多助の指導者を頭人(とうにん)と言います。

さて、冒頭で紹介した「三閉伊一揆手引草」という本が、千部出版され最後の二